

---

# いつか笑って好きと言えるように

マヨラー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

いつか笑って好きと言えるように

### 【コード】

N9474I

### 【作者名】

マヨラー

### 【あらすじ】

素直になれない私を、君は愛してくれていた。そんないつかのお話…。

何で私は笑ってあげられなかったんだろう？

いつかこんな時が来てしまう事くらい分かっていた筈なのに…。

輝いてた毎日の中で、一度くらい笑えた筈なのに

素直になれなくて

わがままで

不器用で

それでも君が好きで

それでも君に好きと言えなくて

それでも君は私を抱いてくれた。

素直になれない私を、君は察してくれた。

一回も好きと言ったことのない私と本気で付き合ってくれた。

君と肌を重ねたって…。

息を荒げながら「馬鹿……」としか言わない私を

疑わず愛してくれた。

それなのに、それなのに

私は一度も君に笑顔の一つも贈ることが出来なかった。

机に置かれた手紙、さようなら。

しょうがないんだと、

私が悪いからと、

必死に認めようとした。

頑固な頭で、必死に、必死に。

それでも、心の滴は私の眼から滴り落ちるばかり…。

世界で一番傍にいたのに。

私は君を繋ぎ止める事が出来なかった。

いめん…いめん…。

きつとこんな私を愛し続けるのは大変だったんだと思う。

「めん、めん...」。

こんな私でごめん...」。

でも、やっぱり...」。

好き……なんだよ……。

好きって……言いたかったよ……。

一緒に……笑いたかった……よ……ッ！

ふと肩に置かれた手……。

忘れもしない、君の温もり。

ちょっと意地悪してみたただけだよって……。

可愛くなって……。

泣くなよって……。

馬鹿だって……。

君はもう一度私を抱いてくれた。

「馬鹿……」って、やっぱり私はそれしか言えなかった……。

こんな馬鹿な私を、愛してくれて有り難う。

本当は、本当に感謝してるよ。

だから、待ってて…。

いつか絶対、笑ってみせるから。

好きって言ってみせるから。

どんなに私の顔が恥ずかしさで紅くなってたって…

君の顔をそれ以上に紅くしてみせるから。

好きだよ。

今日も君は、「馬鹿……」としか言えない私と、肌を重ねる……。

きつとこれからも……。

。あつこ

…  
n i n .

(後書き)

無性に短編書きたくなって、五分で書いてみました(笑)

にも関わらず、個人的には中々の出来だと思えます(笑)

二人の恋がいつまでも続くように……。

感想待ってます！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9474i/>

---

いつか笑って好きと言えるように

2010年10月14日13時39分発行